

## 海洋研究開発機構（JAMSTEC）横須賀本部の見学会

事務局長 松藤 浩一郎

日本衛星ビジネス協会では、7月4日（金）に今年第1回目の企画として、独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の横須賀本部を視察しました。当協会は毎年会員向けに施設見学会を開催しており、今回は学生会員の方々を含め総勢24名の会員が参加しました。

JAMSTEC 横須賀本部は、京急線追浜駅から10分ほどバスに乗り、大型の研究施設が立ち並んだ港湾地帯の一面にあります。周辺には、世界最古級の土器や釣り針が発掘された夏島貝塚や海軍航空隊発祥の地、明治憲法草案記念碑など重要な史跡が点在しており、歴史スポットとしても知られています。

JAMSTEC は 1971 年、海洋科学技術の総合的な試験研究を行う目的で「海洋科学技術センター」として発足、2004 年には独立行政法人として生まれ変わり、気候変動のメカニズムから地殻内微生物の生態研究まで調査領域をひろげ、地球規模の環境問題の解決を担う重要な研究機関です。

見学会では、JAMSTEC が取り組んでいる地球温暖化シミュレーションや海底地質調査の研究成果、自衛隊の要請で護衛艦あたごと清徳丸との衝突事故海域調査を請け負った事例などを紹介していただいた後、実際に、有人潜水調査船「しんかい 2000」をはじめ、高圧実験水槽、「しんかい 6500」の実物大模型の展示や深海に棲む生物の生体展示を行っている海洋科学技術館などを見学させていただきました。

一昨年リメイクして公開された映画『日本沈没』の撮影では、本物の有人潜水調査船「しんかい 6500（※映画では「わだつみ 6500」）」や地球深部探査船「ちきゅう」が使用され、横須賀本部も映画の舞台として数多く登場したそうです。



有人潜水調査船「しんかい 2000」（2002 年に 1411 回の潜航を終え今は現役引退）

潜水調査船や地球深部探査船が航行する深海の極限環境、そのために必要な耐水圧設計・構造、試験などの話を聞いているうちに、普段、衛星ビジネスに関わっている参加者からは、「衛星の環境と非常に似ている！」との声が上がっていました。



「しんかい2000」の耐圧殻（コックピット）外部の視窓。耐圧殻内の居住空間は内径僅か2.2m。そこにパイロット2名と研究者1名が乗り込み、約7時間の潜行を行う。

JAMSTECの地道な取り組みを知り、地球温暖化や大規模自然災害に対する科学研究の重要性を痛感するとともに、深海や宇宙に挑戦し続ける人間のロマンも感じた有意義な一日となりました。

ご協力いただいたJAMSTEC広報課の皆さん、本当にありがとうございました。

以上